

## 編集後記

今年は例年になく厳冬を迎えた。その中から今年度における研究の成果の一部をこゝに発表することになった。ところがわれわれの個人研究費の一部を割いている印刷費はまた諸物価の値上りに比しまことにお寒い限りである。各自の持寄りを増額のやむなきにいたつたことは情ない次第である。われわれの研究費の総額は限りがあるのだからまことに自分の脚を食つているようなものである。

しかし研究成果の発表は一応の予算額が決つていてもそのために遠慮するようなことが絶対にあつてならないことは勿論である。幸いにして来年度から印刷費を研究費外の別途予算として組まれる計画になつ

た。これはわれわれの発表機関を自由に駆使するために是非とも成立させたいものである。

早春のいま香椎の学び舎を巣立つて行かれる卒業生の方々にこの乏しい研究費で印刷されながら豊かな先生方の学識あふるる論文を学究の記念として贈る次第である。

(1963. 2. 22)

## 執筆者紹介

丸 田 敬	本学助教授 (英文学)
石 本 キ ミ	本学助教授 (英文学)
福 間 欣 一	本学助教授 (英文学)
根 本 道 也	本学講師 (独文学)
秋 枝 蕭 子	本学助教授 (教育学)
町 田 恭 三	本学助教授 (心理学)

昭和 38 年 2 月 25 日 印刷

昭和 38 年 3 月 10 日 発行

文芸と思想 第 25 号

編集者 石 井 康 一  
秋 枝 蕭 子

福岡市香住ヶ丘一丁目一番地

発行者 福岡女子大学文学部

印刷者 間 茂 樹

福岡市渡辺通り五丁目十四街区九号

印刷所 秀巧社印刷株式会社